

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

## 「蛋白分画」 検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこの度、セルロースアセテート膜を支持体に用いて検査を行っている下記項目につきまして、令和2年4月1日より同年1月6日から検査受託を開始致しますキャピラリー電気泳動法に変更 (INFORMATION : 19-45参照) させていただきます。

誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### 対象項目

- [00023] 蛋白分画

#### 変更期日

- 令和2年4月1日(水)受付日分より

※本案内以降、先行して変更を希望される場合、令和2年1月6日(月)より順次ご依頼いただけます。

詳細につきましては、INFORMATION : 19-45をご参照下さい。



## 血清蛋白分画の検査要項

変更内容	新	旧
項目コード	34153	00023
検査項目名	蛋白分画《キャピラリー電気泳動法》	蛋白分画
検査方法	キャピラリー電気泳動法	セルロースアセテート膜電気泳動法
検体量／保存方法	血清 0.4mL *1 / 冷蔵 [容器番号:01番]	血清 0.3mL / 同左
基準値*2	アルブミン : 55.8~66.1 (%) α <sub>1</sub> グロブリン: 2.9~4.9 (%) α <sub>2</sub> グロブリン: 7.1~11.8 (%) β <sub>1</sub> グロブリン: 4.7~7.2 (%) β <sub>2</sub> グロブリン: 3.2~6.5 (%) γグロブリン : 11.1~18.8 (%) A/G : 1.3~1.9	アルブミン : 62.0~72.0 (%) α <sub>1</sub> グロブリン: 2.0~3.0 (%) α <sub>2</sub> グロブリン: 5.0~9.0 (%) βグロブリン : 7.0~11.0 (%) γグロブリン : 11.0~20.0 (%) A/G : 1.60~2.60
報告下限	(設定なし)	同左
報告上限	(設定なし)	同左
報告桁数	小数1位、有効3桁	同左
所要日数	2~3日	同左
備考	*1: 溶血検体でのご依頼は避けて下さい。造影剤などの薬剤を投与された場合には検査値に影響がみられる可能性があります。 *2: 蛋白分画《キャピラリー電気泳動法》の基準値設定は分画測定値のみとし、濃度の設定はございません。	

## 尿中蛋白分画の検査要項

変更内容	新	旧
項目コード	34206	00023
検査項目名	尿中蛋白分画《キャピラリー電気泳動法》	蛋白分画〈尿〉
検査方法	キャピラリー電気泳動法	セルロースアセテート膜電気泳動法
検体量／保存方法	尿 5mL / 冷蔵 [容器番号:25番]	尿 7mL / 同左
基準値	(設定せず)	同左
報告成分*	アルブミン (%) α <sub>1</sub> グロブリン (%) α <sub>2</sub> グロブリン (%) βグロブリン (%) γグロブリン (%) A/G	同左
報告下限・上限	(設定なし)	同左
報告桁数	小数1位、有効3桁	同左
所要日数	2~3日	同左
備考	* : 尿検体は補体成分であるβ <sub>2</sub> グロブリンを含まないため、5分画報告となります。	

※詳細につきましては、INFORMATION : 19-45をご参照下さい。

### 参考文献

伊藤喜久 : Medical Technology 39 (3) : 278-284, 2011.  
 藤川麻由美, 他 : 医学検査 62 (suppl) : 37, 2013.

# 蛋白分画

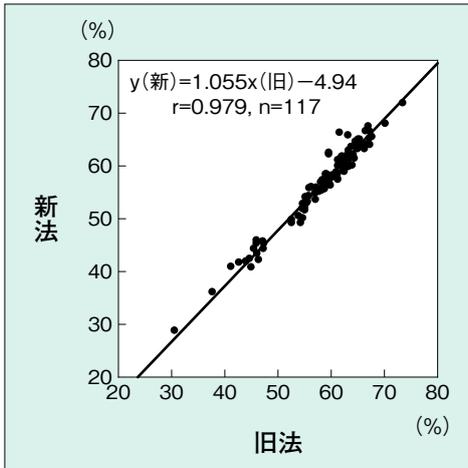
本検査は、セルロースアセテート膜のような固体の支持体を用いず、キャピラリーと呼ばれる管にバッファーを充填し電気泳動を行うもので、優れた分離能をもつことにより高感度・高精度に蛋白成分を分離し測定することができるため、血清検体では従来の5分画から、β領域をさらにβ<sub>1</sub>、β<sub>2</sub>に分離した6分画での報告が可能になりました。

β位のM蛋白はβ<sub>2</sub>領域にピークの出現が多いとされていますが、本検査はβ位のM蛋白検出感度がセ・ア膜の2倍以上であり、β領域の2分画化はM蛋白血症の早期発見の可能性が高まるだけでなく、β位以外の分画(γ位、稀にはα<sub>2</sub>位)に存在する微小なM蛋白も検出可能です。

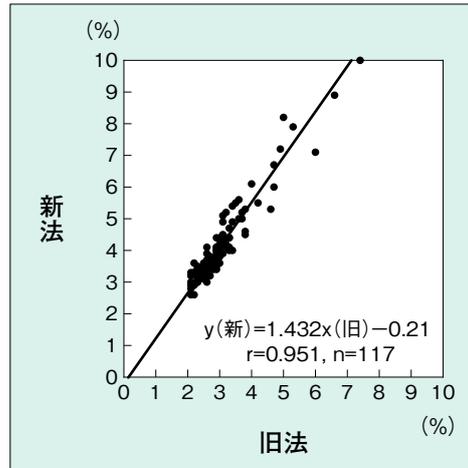
本検査は従来の蛋白分画による炎症性疾患や肝障害、低蛋白血症の解析等とともに、M蛋白を伴う多発性骨髄腫、悪性リンパ腫などのスクリーニング、早期診断の向上も期待されています。

## 〈血清〉新旧二法の相関

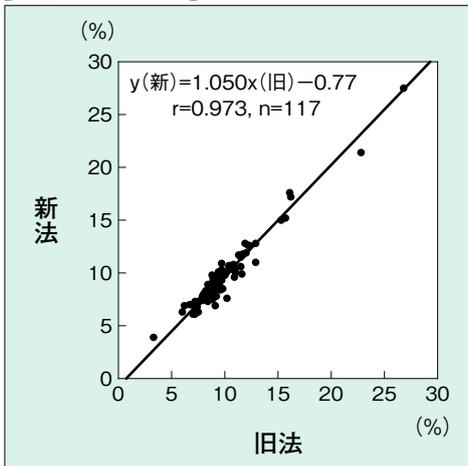
[アルブミン]



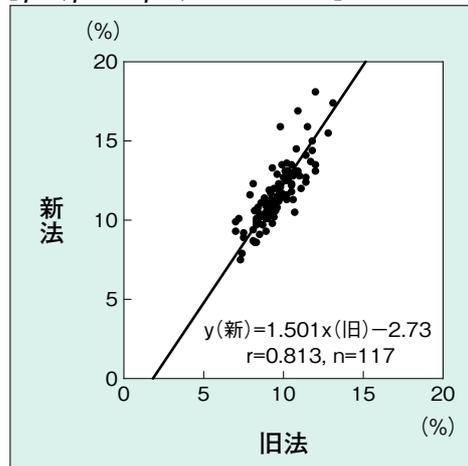
[α<sub>1</sub>グロブリン]



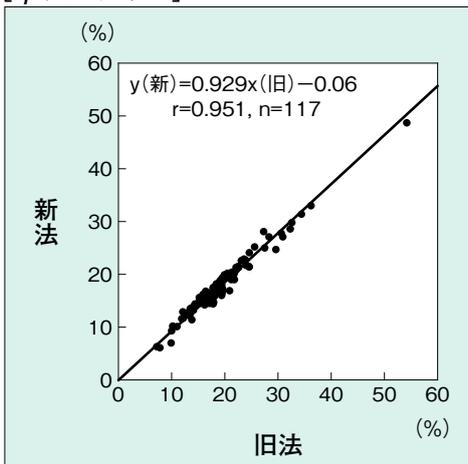
[α<sub>2</sub>グロブリン]



[β (β<sub>1</sub>+β<sub>2</sub>) グロブリン]



[γグロブリン]



# 蛋白分画検査報告書 (血清用) の見本

## 血清用

### 蛋白分画検査報告書

患者名  様

科名  カルテNo.

担当医  患者ID

検査材料  検体情報 乳び  溶血

検体No.

年齢  性別

採取日  年  月  日

受付日  年  月  日

報告日  年  月  日

項目	分画測定値	単位	濃度	単位	基準値
総蛋白				g/dL	6.7 ~ 8.3 g/dL
<b>1</b> 蛋白分画					
① アルブミン		%		g/dL	55.8 ~ 66.1 %
② α <sub>1</sub> グロブリン		%		g/dL	2.9 ~ 4.9 %
③ α <sub>2</sub> グロブリン		%		g/dL	7.1 ~ 11.8 %
④ β <sub>1</sub> グロブリン		%		g/dL	4.7 ~ 7.2 %
⑤ β <sub>2</sub> グロブリン		%		g/dL	3.2 ~ 6.5 %
⑥ γ グロブリン		%		g/dL	11.1 ~ 18.8 %
A/G (電気泳動法)					1.3 ~ 1.9

A/G (電気泳動法)は、蛋白分画より計算されたものです。

**2** 泳動パターン

コメント

医療機関

検査実施施設

( : 既報告、 ! 基準値外、 # 再検済、 ★ 委託)

(参考: 典型例)

	急性炎症	慢性炎症	急性肝障害	肝硬変	慢性リンパ腫(悪)	ネフローゼ症候群	栄養失調、蛋白不足	血管内出血	免疫複合体疾患	免疫不全症
TP			↑~↑↑			↓↓	↓↓			↓~↓↓
ALB	↓↓	↓	↓	↓	↓	↑~↑↑	↑~↑↑			↓↓
α <sub>1</sub>	↑	↑					↓			
α <sub>2</sub>	↑	↑	↓	↓		↑↑	↓			
β <sub>1</sub>	↓	↓				↓	↓			
β <sub>2</sub>	↓	↓				↓	↓			↓
γ	↑~↑↑	↑	↑↑↑	↑↑↑	↑↑↑	↓	↓			↓↓

↓ 減少; ↑ 増加; ↓↓ 顕著な減少; ↑↑↑ 大幅な増加  
監修 前旭川医科大学教授 伊藤 喜久

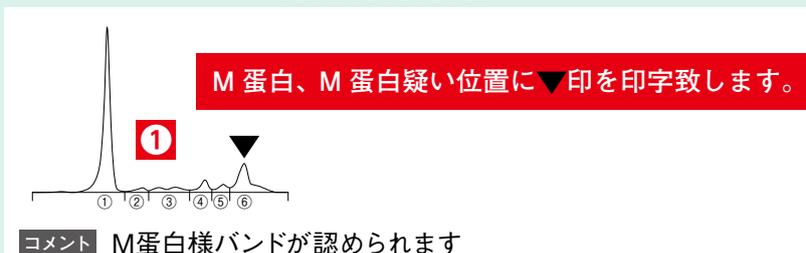
インフォメーション  
医療機関用: (03) 5994 - 2111 1/1

\* 縮小しています。

尿検体でのご依頼時は、『蛋白分画検査報告書 (尿・その他)』にてご報告致します。

### 2 泳動パターンのご報告例

検出された各バンドには、そのピークがどの成分に該当するのかわ確認できるような図の通り、数字(①,②,③,④,⑤,⑥)を付記してご報告致します。(血清蛋白分画のみ)



### 1 数字を付記する各成分

- ① アルブミン
- ② α<sub>1</sub> グロブリン
- ③ α<sub>2</sub> グロブリン
- ④ β<sub>1</sub> グロブリン
- ⑤ β<sub>2</sub> グロブリン
- ⑥ γ グロブリン

### [その他事項]

『総合3連報告書』をご利用のお客様へ  
報告書右下のチャート(泳動図)報告は、令和2年4月1日受付分からの対応とさせていただきます。